



カイはどうして砂にもぐるの

波や引き潮から、身を守るため

カイは、ヒザラガイやカキなどのように、岩などにへばりついている仲間以外は、ほとんどが、砂にもぐって生活しています。岩などについていないカイが、もし、砂にもぐらないでいると、打ち寄せる波にさらわれて、いつもどころ移動させられたり、引き潮や満ち潮のたびに、とんでもない所まで動かされてしまいます。これらのカイは、おもに、満ち潮のとき活動してえさをとらえます。引き潮になると、深い砂の下にかくれ、砂に混じった海水にとりかこまれて、じっと満ち潮がくるのをまっています。

敵から身を守る

砂にもぐっていないと、カイのいちばんの敵である、ヒトデやカニなどにおそわれることが多くなります。危険が近づくと、カイは大いそぎで砂にもぐってしまいます。

砂にもぐっているアサリなどの二枚貝の仲間は、満ち潮のときは、砂の中から入水管や出水管をのばして海水中に出し、プランクトンや死んだ生物が分解されてできた有機物などを、水といっしょに入水管から取りこんで食べています。

肉食性の巻き貝の仲間も、砂の中にたくさんもぐっています。モグラのように砂の中をほり進み、二枚貝や巻き貝をとらえ、歯舌（歯のようなものがびっしりついた舌）で、殻に穴を開け、カイの肉を食べるツメタガイなどもいます。（監修・安部 義孝）

